



第34回 日本神経理学療法学会 サテライトカンファレンスいわて

多様化する 脊髄障害の現在地

The Current Landscape of Diversifying Spinal Cord Disorders

2025年 9月14日 (日)

対面
会場

いわて県民情報交流センター(アイーナ)803会議室

オンライン
会場

Zoomウェビナー

集会長

関 公輔

主催

一般社団法人日本神経理学療法学会



第34回 日本神経理学療法学会 サテライトカンファレンスいわて

日本理学療法士協会専用

多様化する 脊髄障害の現在地

The Current Landscape of Diversifying Spinal Cord Disorders

【セミナー番号】

対面：144819

オンライン：144823

事前専門会員A・B：3,000円

事前一般会員・協会員：3,000円

事前非学会員(協会員)：3,000円

※本セミナーは生涯学習ポイント対象事業ですが、マイページのシステム変更の事情により事前参加登録時にはポイント申請ができない状態となっておりますことをご了承ください。
お申し込み完了後に、改めてポイント申請手続きのご案内および確認・対応を行います。

趣意書

テーマ：「多様化する脊髄障害の現在地」 - 不全脊髄障害に必要な標準的神経理学療法とは -

脊髄障害に対する理学療法は、歴史的には傷痍軍人の社会復帰を目指すリハビリテーションとして始まった。我が国においては、高度経済成長期の二次・三次産業の急激な発展に伴い、労働災害や事故による脊髄損傷者が急増し、社会問題化した経緯がある。その結果、専門病院の設置、診療報酬の整備、障がい者支援のための法整備など、リハビリテーション支援の体系化が進められ、理学療法の役割も明確に位置づけられた。

しかし、その後の労働安全管理体制の確立、労働条件の改善、二次産業の縮小とともに、完全損傷者は大きく減少している。一方で、現在は人口動態の劇的な変化により、少子高齢化が加速し、平均寿命の延伸や労働人口の高齢化に伴い、高齢者の社会参加がますます一般化している。また医療診断技術の発展により詳細な脊髄疾患の診断が可能となったことから、原因究明が不十分であった障害像を詳細に捉えることができる時代を迎えた。

このような社会的背景や医療技術の進展に伴い、**理学療法の現場では、かつて主流であった完全損傷よりも不全損傷例が増え、多様化した脊髄疾患、高齢者特有の脊髄障害が増加している。**具体的には、腰部圧迫骨折に伴う神経症状、腰部脊椎管狭窄症や頸髄症、脊髄腫瘍や脊髄梗塞、脊髄炎による歩行障害など多岐にわたり、多くの理学療法士が日々これらの症例に直面しているのが現状である。

他方、我々理学療法士の教育や臨床研修を振り返ると、脊髄損傷の理学療法においては完全損傷が象徴的に理解され、現代における多様な脊髄障害の臨床像に適した評価や治療体系は、いまだ個別の経験や理解に留まっている側面がある。標準的な神経理学療法の確立が、現代の脊髄障害に対応するためには不可欠となっている。

こうした現状を踏まえ、本サテライトカンファレンスでは、従来の脊髄損傷の理学療法をブラッシュアップし、これから地域社会で直面するであろう多様な脊髄障害に対し、問題点を共有し、最新の知見を取り入れた標準的評価と実践方法を共有する機会としたい。

そして、参加者それぞれが神経理学療法を実践する専門家として、広い見識を持ち、日々の臨床現場に直接役立つ知識と技術を高める一助となることを目的として開催するものである。多様化する脊髄障害の「現在地」を確認し、これからの神経理学療法の方向性を共に考える場となれば幸いである。

大会企画

○開会の挨拶 オープニングリマーク (20分) 10時00分～10時20分

テーマ：「脊髄障害に対する理学療法の変遷とこれから」

集会長 関 公輔 (いわてリハビリテーションセンター)

○基調講演 (50分) 10時25分～11時15分

テーマ：「脊髄障害に対する理学療法のパラダイムシフト-不全損傷時代の評価と介入-」

講師 水上昌文 (茨城県立医療大学)

座長 関 公輔 (いわてリハビリテーションセンター)

○教育講演① (評価と予後) (50分) 11時20分～12時10分

テーマ：「脊髄障害における評価戦略と予後予測のポイント」

講師 佐藤 弘樹 (岩手県立中央病院)

座長 高橋 和夫 (栃内第二病院)

○教育講演② (臨床実践) (50分) 13時00分～13時50分

テーマ：「現代的脊髄障害への理学療法アプローチ」

-多様化する不全損傷・脊椎疾患の具体的対応-

講師 藤縄 光留 (神奈川リハビリテーション病院)

座長 佐藤 弘樹 (岩手県立中央病院)

○実践報告 (60分) 13時55分～14時55分

「急性期における不全脊髄障害の臨床的課題と対応策」(30分) Web

(発表者 佐藤 剛介：奈良県総合医療センター)

「回復期における不全脊髄障害の理学療法実践—現場からの報告—」(30分) Web

(発表者 宮下 創：森ノ宮医療大学)

座長 吉川 憲一 (茨城県立医療大学附属病院)

○総合討論 (70分) 15時00分～16時10分

テーマ：「地域で直面する不全脊髄障害に対し神経理学療法を提供するためのあるべき姿とは」

シンポジスト 水上 昌文 (茨城県立医療大学)

藤縄 光留 (神奈川リハビリテーション病院)

吉川 憲一 (茨城県立医療大学附属病院)

佐藤 剛介 (奈良県総合医療センター) Web

宮下 創 (森ノ宮医療大学)

司会 関 公輔 (いわてリハビリテーションセンター)

佐藤 弘樹 (岩手県立中央病院)

○閉会の挨拶 16時10分～16時15分 準備委員長 佐藤 弘樹 (岩手県立中央病院)

参加ポイントについて (時間数に対する区分/登録/専門・認定更新)

専門・認定理学療法士更新ポイント 5

登録理学療法士更新ポイント 5

カリキュラムコード 区分 6 80：脊髄損傷の理学療法 を予定

※2025年9月～日本理学療法学会連合の会員団体主催研修会が更新ポイントの対象